

ボランティア活動グループ訪問記

オジャマンズ

NPO法人けやきの会の素顔
就労継続支援B型事業所フレンドを
訪問し〜



昨年の秋、湘野辺駅北口の商店街に「もしかめや」というちよっと変わった駄菓子屋さんができたのをご存じだろうか。時々顔を出す店長は「フレンドボール」の亀仙人にそっくりだが、じつは世界的「有名なけん玉先生で、NHKの紅白歌合戦には「けん玉ヒーロー」として4度出演、ギネス世界記録保持者というすごい人なのだ。

そんな前評判から「けやきの会」はけん玉同好会だといふ先入観がかなり強い。12月30日火曜日の午後、大野台にある「就労継続支援B型事業所フレンド」の従たる事業所（通称フレンド従）を訪ねた。ここはNPO法人けやきの会が運営する障害福祉サービス事業所で、サービス管理責任者の鈴木恒介さんからいろいろなお話を聞くことができた。

いただいた名刺を見ると、サービス管理責任者・精神保健福祉士・けん玉先生とある。（えっ、けん玉が最後っ！）けん玉を教えるべしねえわけじゃないんだと思ってしまう。いや、本業らしい事業所の名前である就労継続支援とか、B型とか、障害福祉サービスってなに？ B型ってなに？



けん玉を持つ姿も決まっている鈴木さん

なるこつという、こちらの超初心者顔の色を見て、作業所の見学者や実習者向けに作った説明文

をくださった。それによると、「障害者総合支援法」に定められたサービスで、例えば就労支援や共同生活援助、生活介護、自立生活援助など、多岐にわたったサービスがあり、B型というのは就労継続支援のうち、利用契約を結んだ利用者さんを継続的に支援する事業所で、一般企業の下請けとして作業し、1カ月の総収入を工賃として利用者さんの活動時間に応じて配分する形態だということだった。風間「作業して工賃を受け取りつつ就労に向けて頑張る」という形が一般的な就労継続支援B型作業所のイメージだということだった。

では、鈴木さんがサービス管理責任者を務めるこちらのフレンド従の特徴はというと、精神障がいのある方を対象に地域に密着した作業所として活動しており、「障害者総合支援法」という法律ができてからは法の下に障害福祉サービス事業所として運営しているが、基本方針には「一人一人の人權を尊重し、本人が望む人生の実現を共に目指す」と掲げられている。自分の人生をどうのように生きるかは本人が決めること。職員は「就労支援のついでにたまにけん玉の」

などと言わないのがフレンドの方針で、「したくなったら応援するよ」「立ち止まってもええのに付き合おうよ」「挑戦するのなら反対しないよ」というスタンスで利用者さんへ向かい続けている。

ふだんの作業は一般企業からの受注で配管部品の組み立てや箱折り、チラシ折りとポストイंक、単発の仕事などだが、作業と並行して気分転換や健康づくりのために公園に行ったの音楽を楽しんだりしている。

一方では、昨年に続いて一般社団法人ラフレックスとの共催で市民公開講座の月に開催している。今年

は「こわって虐待の」をテーマに実際に起こっている場面の紹介やグループな対応を来場者と共に考えるという企画で、人が集まるかどうかが「直前まで不安が消えず滅茶苦茶プレッシャーがかかっていた」ということだったが、その口調から大変さは伝わってきたものの、同時に充実感も伝わってきた。きつとけやきの会自体が、ワクワクしたりプレッシャーを楽しんだりする「あそびこ」のようなものがあるのだろうかと思

った。6月にはあじさい会館にて『けやきロックンロール』を開催し、550名もの観客を集め成功裏に終わったとのこと。けん玉と作業所という事業形態がどうも呑み込めなかったが、実際にお話を聞いてみると、それが自然体での支援活動なのだというところに納得がいった。障がい者と「共に」から「はじめよう」という姿勢をふだんの活動のなかでさりげなく実践できているからその余裕で、作業に疲れたら気分転換にけん玉を手取るそんな日常の風景が目に見えるような訪問だった。（高橋・小川）



今年もほかほかふれあいフェスタでけん玉体験コーナーを開催！
たくさん子ども達がけん玉に挑戦していました！



*連絡先

NPO 法人けやきの会
サービス管理責任者 鈴木恒介
神奈川県相模原市南区大野台 1-5-2
電話：042-750-7222